

CBDCフォーラム

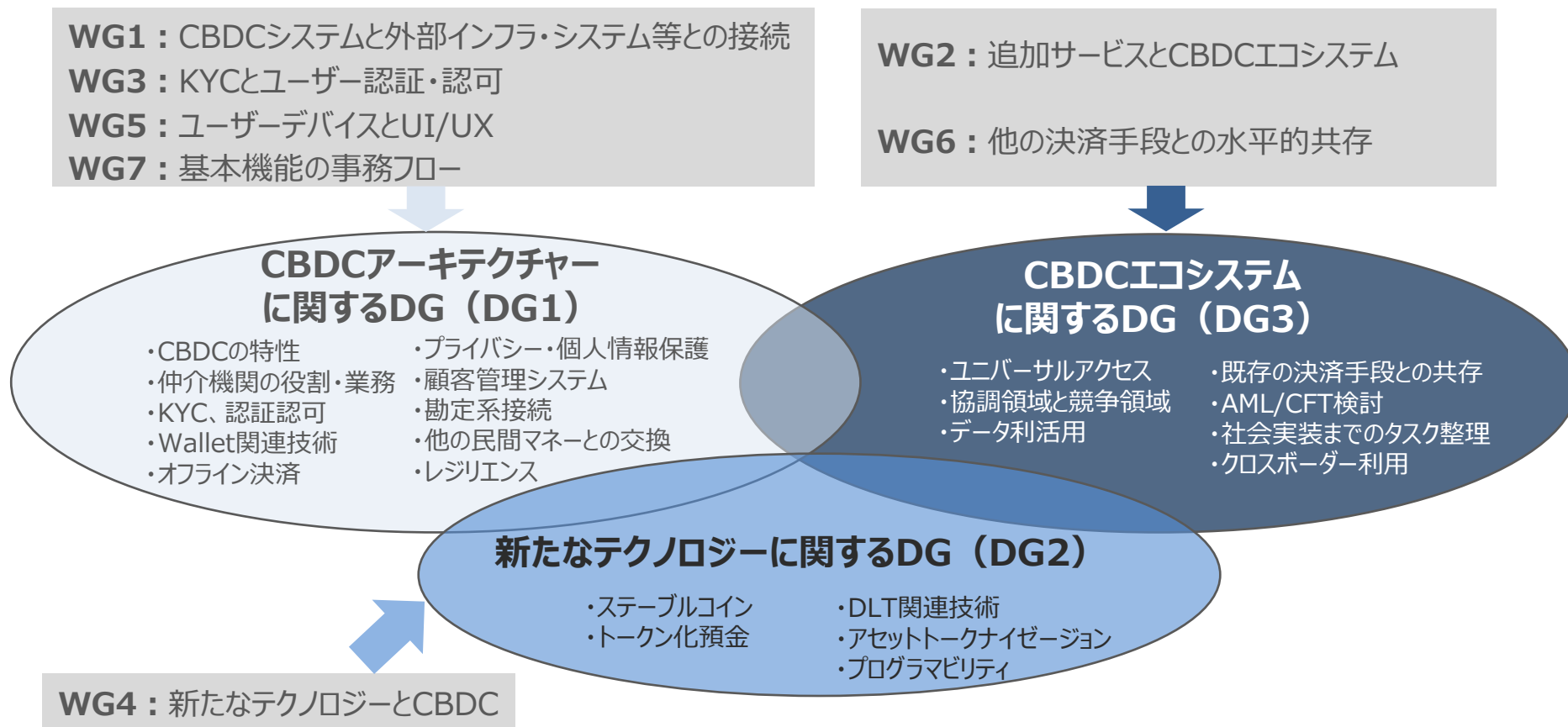
各Discussion Groupの今後の進め方

2026年6月
日本銀行決済機構局



CBDCフォーラムの運営見直しとこれまでのWG等との関係

- 本年1月末に提示したフォーラム再編の概要図は以下の通り。



- ヒアリング結果等踏まえ、今後の運営の方向性として以下の点を提示。

- ① 本行からの情報発信と双方向での議論
- ② テーマ別WGでの議論一巡・WGの統合再編
- ③ 全体感・スケジュール感の提示

各DGの基本的な進め方

DG1：CBDCアーキテクチャーに関するDG

- WG1、3、5、7の検討結果を引き継ぎつつ、**社会実装をするうえで「最低限必要な機能」**にフォーカスして、CBDCのアーキテクチャーに関するシステム・実務および制度上の論点を検討。**実際のCBDC 利用の想定シーン例**に則して、既存システムや民間実務に影響が出そうな論点について、**制度・システム両面から議論**することを想定。

DG2：新たなテクノロジーに関するDG

- WG4の枠組み（＝**将来的に活用しうる技術**に着目し、必ずしも現在の技術的な前提や制約を意識せずに**自由に議論**）を引き継ぎつつ、DLT関連技術やトークナイゼーション、ホールセール関連等を議論。**DLT連携サンドボックスプロジェクトとも適宜連携**。

DG3：CBDCエコシステムに関するDG

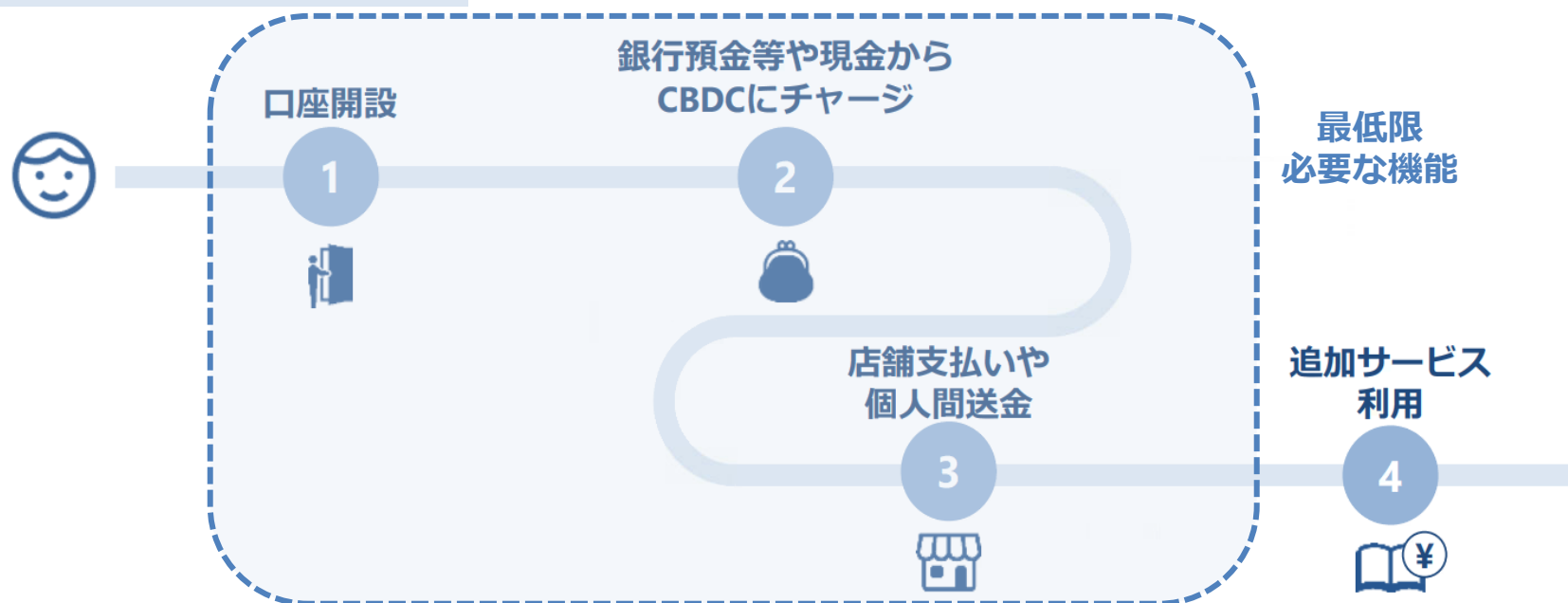
- WG2とWG6の基本的なコンセプトを引き継ぎつつ、**CBDCエコシステム全体を俯瞰**したうえで、DG1やDG2で取り扱わないテーマを中心に議論をしていくことを想定。

DG1会合プラン

(前提)

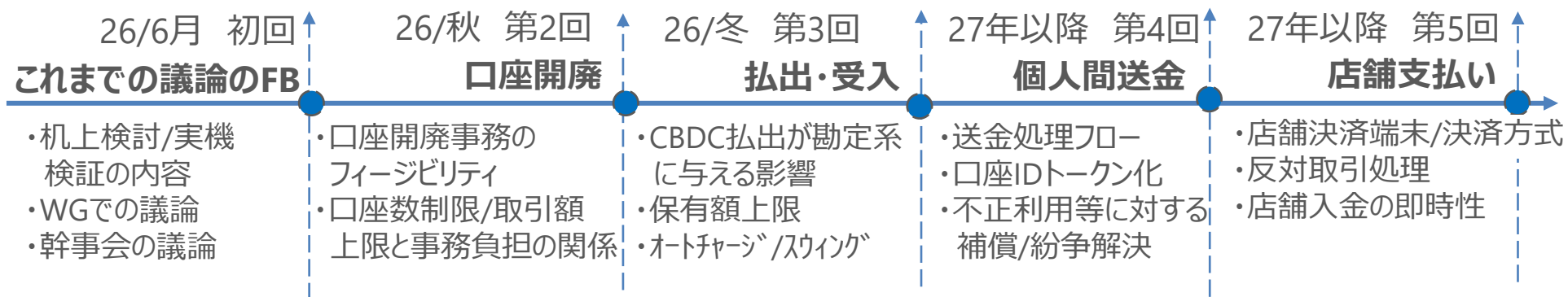
- DG1では、実際の**CBDC利用の想定シーン（ユーザージャーニー）**に則して、既存システムや民間実務に影響が出そうな論点を設定し、議論を行う。
- 「システム・実務」では、**実験用システムの検討結果**等を示しつつ議論（WG7のイメージ）。「制度」では、主に**関係府省庁・日本銀行連絡会議・幹事会等**における検討結果等を示しつつ議論。

CBDC 利用の想定シーン例



DG1会合プラン

- **形式**：頻度は**2～3か月に1回程度・対面を主としたハイブリッド形式**・事務局等によるプレゼンとパネルディスカッションによる2部構成
- **コンテンツ**：CBDC利用の想定シーンに則して、**口座開廃、払出・受入、個人間送金、店舗支払い**を各会合のテーマとして設定
 - ✓ **初回会合**：本行内での机上検討・実機検証の内容やWGでの議論について事務局から説明を行うほか、幹事会における制度上の議論の概要について説明を行う。
 - ✓ **事務局等によるプレゼン**：各テーマに関する本行または幹事会での検討状況等を深掘りし、パネルディスカッションにおける前提および論点を提示する。
 - ✓ **参加者によるパネルディスカッション**：事務局等によるプレゼンで設定した前提を踏まえ、各テーマについて専門的な知識を有する参加者に議論して頂く（モデレーターは事務局を想定）。



開催形式と進め方（共通ロジ関連）

- 開催形式は以下の通り。

- **対象者** : フォーラム参加企業**全社**（含む関係法人）
- **頻度** : **2～3か月に1回**程度（DGによって前後）
- **プレゼンタ** : 日銀および必要に応じて参加者
- **モデレータ** : 原則、日銀にて対応
- **ディスカッサント** : **事前に参加者から数名指定**